

札幌南一条病院

夏号

2026.8 vol.50

FREE

電車通り通信

でんしゃどおりつうしん

特集

『腎代替療法』って何？

▶ 新任のご挨拶〈中村副院長〉

▶ 人間ドックの新しいオプション検査のご紹介

▶ 連携医療機関のご紹介〈市立札幌病院 腎臓内科〉

▶ 南一条文庫

▶ 南一条INFORMATION



社会医療法人北海道恵愛会

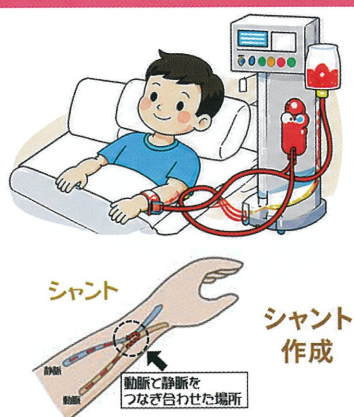
札幌南一条病院

特集

じん だい たい りょう ほう 腎代替療法って何？

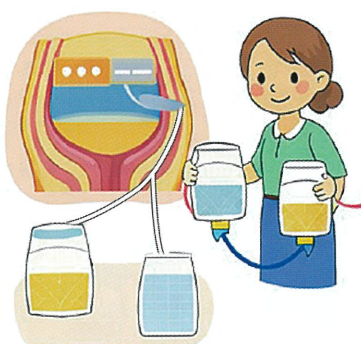
腎臓は、体の中の老廃物や余分な水分を排出し、体のバランスを整える重要な臓器です。さらに、血圧の調整や赤血球をつくるホルモンの分泌など、生命維持に欠かせない働きを担っています。しかし、慢性腎臓病などによって腎臓の機能が徐々に低下すると、体の中に老廃物がたまり、むくみや倦怠感、食欲低下など、さまざまな症状が現れます。腎機能が正常の15%以下になると、体の状態を保つために腎臓の機能を人工的に補う治療が必要となってきます。これが「**腎代替療法**」といわれるものです。よく知られているものとして血液透析が有名ですが、それを含め腎代替療法には大きく三つの選択肢があります。

① 血液透析



腎臓の代わりに機械で血液を浄化する治療法。週に数回、病院や透析施設で行う。腕の血管（シャント）から血液を取り出し、透析器で老廃物を除去して体に戻す。

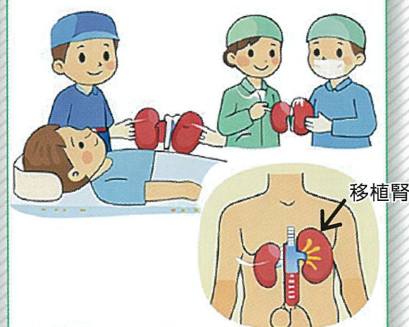
② 腹膜透析



廃液バッグ・透析液バッグ

自分の腹膜を使って血液を浄化する治療法。カテーテルを通して透析液を腹腔に入れ、数時間後に排出する。

③ 腎移植



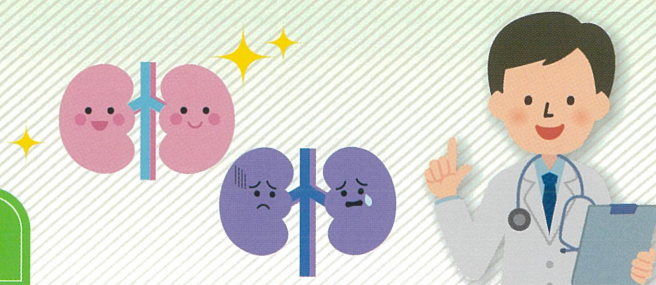
健康な腎臓を提供者から移植して、腎機能を回復させる治療法。

① 血液透析

一つ目は血液透析です。腕に作ったシャントという血管から血液を取り出し、透析装置で老廃物や余分な水分を取り除いて体に戻します。週3回、1回4時間ほどの通院が一般的で、医療スタッフの管理のもとで安定した治療が受けられます。規則的な通院が必要ですが、治療の質が安定しており、多くの患者さんが選択している方法です。

当院の透析室は、最新のコンピューターシステムを導入し、血液濾過透析（HDF）にも対応可能です。患者様の安全と快適さを最優先に考え、最新の医療技術を駆使しています。





2 腹膜透析

二つ目は腹膜透析です。お腹の中にある腹膜を利用して体内で浄化を行う方法で、自宅で行える点が大きな特徴です。透析液をお腹に入れ、数時間ごとに交換することで老廃物を排出します。夜間寝ている間に施行する方法もあります。自分の生活リズムに合わせて治療を組み

立てられるため、仕事や家事との両立を重視したい方向いています。一方で、毎日の管理が必要であり、感染予防のための清潔操作が欠かせません。最初は腹膜透析で治療を開始し、数年後血液透析に移行するのも可能です。

3 腎移植

三つ目は腎移植です。健康な腎臓を提供してもらい移植することで、腎機能を回復させる治療です。成功すれば透析から離れ、より自然に近い生活を送れる可能性があります。腎移植には大きく二つの種類があります。家族などの身近な方から腎臓を提供してもらう**生体腎移植**

と、亡くなられた方から提供された腎臓を移植する**献腎移植**という。ただし、手術が必要であり、術後は拒絶反応を防ぐために免疫抑制剤を飲み続ける必要があります。また、提供者の確保や適合性の確認など、準備に時間がかかることもあります。

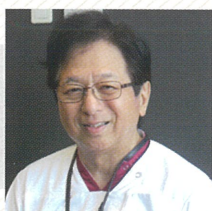
4 メリットと注意点

どの治療にもメリットと注意点があり(表1)、患者さんの生活スタイル、体の状態、価値観によって最適な選択は異なります。大切なのは、医療者とよく相談し、自分に合った治療を納得して選ぶことです。腎代替療法は「終わり」ではなく、新しい生活を築くためのスタートラインです。あなたの生活を支える最良の方法を、一緒に考えていきましょうが、一人で抱え込む必要はありません。あなたの生活を守るために、私たちと一

緒に最適な治療を考えていきましょう。

表1. 各腎代替療法の特徴、メリットおよび注意点

治療法	特徴	メリット	注意点
血液透析	週3回通院	安定した治療	通院が必要
腹膜透析	自宅で実施	生活に合わせやすい	毎日の管理が必要
腎移植	腎機能を回復	透析不要の生活	手術・免疫抑制剤



北海道恵愛会 札幌南一条病院
院長 土田 哲人

PROFILE

札幌医科大学医学部卒。米国サウスアラバマ大学留学、札幌医大附属病院(講師)、JR札幌病院(副院長)を経て2021年より現職。
日本内科学会認定内科総合専門医・指導医、日本循環器学会認定循環器専門医・FJCS、日本心臓病学会上級心臓臨床医(FJCC)、医学博士。

新任医師紹介



副院長 中村 雅則

PROFILE

【経歴】

旭川医科大学 医学部卒業
札幌医科大学第二外科 入局
米国エモリー大学フェロー
札幌医科大学 講師
市立札幌病院 理事、副院長
札幌医科大学 臨床教授

【資格・所属学会等】

医学博士
日本胸外科学会 認定医、指導医、評議委員
日本外科学会 認定医、指導医、専門医
日本心臓血管外科 専門医、評議委員、北海道支部委員
日本冠疾患学会 FJCA 評議委員
日本循環器学会 専門医
日本医師会認定産業医

このたび十六年間勤務いたしました市立札幌病院を定年退職し、2026年5月1日より札幌南一条病院副院長として勤務しております。

市立札幌病院在任中は、心臓血管外科医として急性期循環器医療に携わるとともに、副院長、循環器センター長、地域連携センター長、臨床研修センター長などの職務を務め、多くの先生方をはじめ、医療スタッフ、事務職員など数多くの皆様から温かいご支援とご厚情を賜りました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

このたび、札幌南一条病院院長 土田哲人先生よりお声掛けをいただき、札幌市中心部に位置し、藻岩山や手稲山を望むこの病院で、地域の皆様に寄り添う医療に取り組めることを大変うれしく思っております。これまで急性期医療の現場で多くの患者さんと向き合う中で、医療の進歩によって救命できる患者さんが増える一方、高齢化の進展に伴い、病気を治すことだけではなく、その後の生活や人生を支える医療の重要性を強く実感してまいりました。

近年、循環器領域では診断技術や治療法が飛躍的に進歩し、これまで治療が困難であった高齢の患者さんにも多くの恩恵がもたらされています。しかしその一方で、フレイルや多疾患併存など、医療だけでは解決できない課題も増えております。今後の地域医療においては、「治す医療」に加え、「治し、支える医療」の充実がますます重要になるものと考えております。

私は、循環器専門医としての経験を生かしながら、循環器疾患、腎疾患の診療に加え、高齢者医療や障害者医療を含む慢性期医療にも力を注いでまいります。また、患者さんご本人とご家族の価値観を大切にしながら、ACP(アドバンス・ケア・プランニング：人生

会議)やShared Decision Making(SDM)を実践し、多職種が連携して最善の医療を提供できる体制づくりに努めてまいります。

大動脈瘤、大動脈弁狭窄症、狭心症、末梢動脈疾患(PAD)などの循環器疾患に対しては、早期発見と適切な治療介入が重要です。当院では継続的な外来診療と経過観察を行いながら、市立札幌病院や札幌医科大学附属病院などの高度急性期医療機関と連携し、適切なタイミングで専門的治療につなげてまいります。一方で、高齢や全身状態などの理由により侵襲的治療が難しい患者さんに対しては、十分な対話を重ねながら、その方らしい人生を支える医療を提供することも重要な役割と考えております。

また、慢性腎不全患者さんに対しては、腎代替療法の説明の上での透析導入、シャント作成、その後の全身管理、シャント管理まで、患者さんの不安に寄り添いながら丁寧な説明と意思決定支援を行い、多職種チームとともに質の高い医療を提供してまいります。

さらに外来では、高血圧、糖尿病、脂質異常症に対する管理や禁煙指導など、動脈硬化性疾患の予防を目的とした包括的なリスク管理に取り組んでまいります。また、肥満症や睡眠時無呼吸症候群に対する診療を通じて、循環器疾患の発症・進展予防にも積極的に取り組み、健康寿命の延伸に貢献したいと考えております。

地域の先生方との連携を何より大切にし、安心してご相談、ご紹介いただける病院を目指してまいります。循環器疾患、腎疾患のみならず、高齢者・障害者医療を含めた地域医療に貢献してまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

人間ドックの新しいオプション検査のご紹介

この数十年、日本人はずいぶん長生きするようになりました。一方で昔の欧米人の後を追いかけるように、食が豊かになり、コレステロール摂取量やアルコール消費量の増加、さらに運動量の減少なども目立つようになりました。その結果、肥満傾向の人が増え、**睡眠時無呼吸症候群(SASといいます)**に該当する人も増えました。また、SASに随伴して、あるいはSASがなくても**動脈硬化性疾患(脳梗塞や心筋梗塞)**が増えました。こういった時代背景もあって、当院でも人間ドックのオプション検査として、**「SAS簡易検査」**や**「動脈硬化早期予測マーカー：LOXインデックス」**を導入しましたので、ご紹介します。

SAS簡易検査



睡眠時無呼吸症候群の字のとおり、寝ている間の無呼吸の程度を検査します。実に日本人成人男性の4~5人に一人はSASと言われています。SASがあると、血中酸素

飽和度が8000m級の山頂滞在時と同じくらい下がる人もいます。また、1回あたり2分間も息が止まる人もいます。この場合、脳が低酸素となり熟眠できず、車の運転中に交通事故を起こすリスクや、他の不慮の事故に会うリスクが高まります。またSASを放置した場合、将来脳梗塞や心筋梗塞などを発症するリスクも一段と高まります。

検査は簡単で、人間ドック受診日の夜に実施していただき、翌朝に機器を解析担当の会社へ郵送していただいて終了です。肥満傾向で思い当たる方は、是非一度受けてみましょう。



動脈硬化早期予測マーカー LOXインデックス



一方で肥満がなくても**脳梗塞**や**心筋梗塞**になる人も多いです。発症してからでは元通りの生活に戻すことは難しく、早期発見と早めのライフスタイルの改善が一番大切です。そこで当院でも、**LOXインデックス**という新しい**動脈硬化早期予測マーカー**の検査を取り入れることにしました。これは肥満があってもなくても受けていただけます。

どういう検査が分かりやすく説明しますと、2種類の関連マーカーを同時測定し、縦軸と横軸にグラフにして、病気のリスクを判定する検査です。具体的には、血液中の悪玉コレステロールの中でも最も悪い酸化変形型コレステロール(LAB)と、これを血管の壁に取り込むsLOX-1という分子の2つを測定する検査です。検査結果の解析には約2週間かかりますが、詳しい検査結果を後日郵送させていただきます。LOXインデックス検査は、次のような方に強く勧めます。



- 45歳以上で肥満気味または肥満である。
- 脂っこいものが好きである。または脂質異常を言われたことがある。
- 塩辛いものが好きである。または高血圧を言われたことがある。
- よくタバコを吸う。
- 運動不足である。
- 健診やドックのエコー検査で腹部動脈硬化をいわれたことがある。

以上、生命維持や生活の質に大きく影響するSAS、また動脈硬化の可能性のありそうな方は、是非**SAS簡易検査**、**LOXインデックス検査**を受けてみましょう。そしてライフスタイルの改善や治療が始められるよう、早め早めの一手を打ち、元気に長生きして人生を楽しみましょう!

消化器内科 主任医長 **小林 大介**

PROFILE

札幌医科大学医学部卒業。医学博士。室蘭日鋼記念病院、北海道循環器病院、ハーバード大学医学部VAMCメディカルセンター、札幌医科大学附属病院などの勤務を経て、2015年9月より現職。日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本癌学会、日本臨床検査医学会所属。





連携医療機関の ご紹介



市立札幌病院は、当院は明治2年(1869年)に創立され、156年目を迎えました。高度急性期病院として医療機能の充実に努めているとともに、33の専門診療科があり、互いに連携して診療にあたっています。当科では、以下のような腎疾患診療を行っています。

【腎炎】

慢性腎臓病(CKD)は学校検尿や検診の尿異常で早期発見できることも多く、その時点で精査できれば、腎機能が低下する前に治療することができます。また、急激に発症する疾患もありますが、その場合もできるだけ早く診断し治療に取りかかることが重要です。腎生検を行った症例は、病理診断科とのカンファレンスを行い、診断・予後・治療方針について検討し治療に役立てています。特に日本人の慢性糸球体腎炎に最も多いIgA腎症の診療にも力を入れています。



【CKD診療】

慢性期に入ったCKD症例はかかりつけ医の先生方と連携しながら腎機能悪化を遅らせる治療を目指します。近年、新規治療薬も加わり、治療の選択肢も増えてきました。

病棟では、腎不全教育入院を行なっています。その際に用いられる腎不全教育のしおりは、医師・看護師・栄養科・リハビリテーション科などの多職種が関わるような内容としております。

【腎代替療法選択外来】

さまざまな治療を行なっても、腎代替療法を要する段階に進む患者様もおられます。当科では外来での医師による説明のほかに、2021年に透析室スタッフと移植コーディネーターが中心となって



市立札幌病院 腎臓内科

行う腎代替療法選択外来を開設いたしました。血液透析のみならず、腹膜透析、腎移植・保存的腎臓療法などについて、その方にとってなにが最良かを一緒に考えていきます。CKDステージG4のタイミングで腎代替療法選択外来を受けていただくことをお勧めしています。

【腎代替療法】

血液透析・腹膜透析を当科で、腎移植は腎臓移植外科で担当しています。

当院の透析室は、看護師、臨床工学科とともに、透析導入・急性腎不全や他科に入院中の患者様の透析治療を行なっています。

以上のように、当院の特性を生かして、多くの診療科・多職種と連携し、よりよい診療を目指しています。

札幌南一条病院様には、当院の各科でお世話になっております。循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科を中心に、質の高い医療をされており、大変信頼しております。当科からは、透析導入後の患者様の外来通院透析のみならず、すぐに退院できない患者様の継続治療やリハビリテーションを兼ねた診療をお引き受けいただくことが多いのですが、いつも丁寧にご対応いただき感謝しております。当院の前副院長の中村雅則先生も着任されたとのこと、これからも連携を深めていけたら嬉しく存じます。今後ともよろしくお願いいたします。



市立札幌病院 腎臓内科スタッフ(研修医2名とともに) 筆者は左から3人目

執筆 腎臓内科部長 島本真実子 先生

【略歴】1997年 北海道大学医学部医学科卒業。北海道大学病院および札幌厚生病院において臨床研修。1999年 北海道大学医学部第二内科(現 リウマチ腎臓内科)に入局。2001年 北海道大学第二内科腎臓グループに所属。2003年 市立札幌病院腎臓内科勤務。2008年 北海道社会保険病院(現 JCHO北海道病院)腎臓内科医長(2010年〜同部長)。2012年 順天堂大学医学部 腎臓内科学講座にてIgA腎症・補体などの研究に従事。2014年 医学博士の学位取得。順天堂大学医学部腎臓内科学講座助教(非常勤)2015年 市立札幌病院腎臓内科医長。2020年より同部長

【専門医、資格】・日本内科学会 認定内科医、総合内科専門医、指導医
・日本腎臓学会専門医、指導医・日本透析医学会専門医、指導医・日本臨床腎移植学会腎移植認定医・日本移植学会移植認定医・日本生活習慣病学会管理指導医

市立札幌病院

札幌市中央区北11条西13丁目1-1 ☎:011-726-2211
<https://www.city.sapporo.jp/hospital/index.html>



アレルギーの科学

なぜ起こるのか
どうして増えているのか

森田英明 足立剛也 編著
講談社 BLUE BACKS



いつのころからか、飲食店の予約や訪店時に食物アレルギーを尋ねられるようになり、当初は違和感がありましたが、とくに今の若い世代には食物アレルギーのある人が少なくないようです。日々の呼吸器内科・漢方内科の診療でも、ハウスダスト、ダニ、花粉、さまざまな食物、もしくは薬剤などに対するアレルギーがある方をよくみます。また、喘息で来院されている患者さんでは、アレルギー性鼻炎やアトピー性皮膚炎を合併している方も珍しくありません。日本国民の二人に一人が抱えているとされるアレルギー疾患がなぜ起こるか、そして、どうして増えているかという疑問に答えてくれるのが本書です。

「アレルギー」とは、本来生体にとって無害であるはずの特定の物質に対して、細菌・ウイルス・カビ・寄生虫から身を守るシステムである「免疫」が過剰に反応することを指し、遺伝

要因と環境要因という2つの要素が複雑に相互作用することで発症すると考えられています。第3章の「アレルギーはなぜ増えた？」では、大気汚染や室内環境、加工食品や食器用洗剤、ヘルスケア・スキンケア製品などによる影響のほか、巷(ちまた)で聞く〈衛生仮説〉、最近注目される腸内細菌と関わる〈マイクロバイオーーム(微生物叢)仮説〉、〈上皮バリア仮説〉についてわかりやすく説明しています。〈上皮バリア仮説〉とは、皮膚、腸管、気道の上皮組織でのバリア機能が、ダニなどの自然界の抗原や、化学物質、大気汚染などにより破綻し、アレルギー疾患、自己免疫疾患、慢性炎症などをもたらすという仮説です。

「アレルギー疾患」として、本書ではアトピー性皮膚炎、喘息、花粉症、アレルギー性結膜炎、好酸球性消化管疾患、蕁麻疹・アナフィラキシーなどを挙げており、次の第5章では、「アレルゲン別にみるアレルギー」として、食物アレルギー、口腔アレルギー症候群、かぶれ・金属アレルギー、薬剤アレルギー、動物(とくにペット)と昆虫によるアレルギーについて日常生活に直結した内容で読みやすくなっています。

編者のおわりのことばをお伝えします。〈アレルギーは決して「どうにもならない」病気ではありません。症状の背景にある仕組みを正しく知り、原因となり得るアレルゲンを理解し、医療の手を借りながら自分の体の反応や環境に向き合うことで、苦しみや不安から解放され得る病気です。(途中略)社会全体がアレルギーに対する理解を深め、地域やコミュニティで支えあう仕組みを整えていく必要があります。(本書310-311ページ)〉

春・初夏・初秋にみられる花粉症のピークがないこの季節に、アレルギー問題を考えたり、対処するときの参考にしてみてください。

MINAMI 1 JO HOSPITAL INFORMATION

南一条病院インフォメーション

去る令和8年4月1日、新年度の入社式が執り行われました。新入職者の、医療人としてのひたむきに学ぶ姿勢に、職員一同改めて気持ちが引き締まる想いです。まだまだ未熟な点はございますが、皆様どうぞよろしくお願い致します。

令和8年度の入社式が執り行われました



外来担当医一覧



※令和8年5月1日より変更

科目	時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
循環器・腎臓・糖尿病内科	午前	高木	青山	青山	工藤	工藤	ホームページ参照 ※1
		占部	高木	土田	土田	占部	
		西沢 (腎臓専門外来・完全予約制)	鳥井	陳	神津	鳥井	
	午後	中村	鳥井	陳	中村	中村	休診
						土田 (セカンドオピニオン)	
		中村	工藤	高木	青山※3 (透析専門外来)	青山	
呼吸器内科	午前	高橋	田垣	眞木 漢方外来 一般診療との並行診療	高橋	眞木 漢方外来 一般診療との並行診療	休診
	午後	田垣	眞木 漢方外来 一般診療との並行診療	高橋	田垣	高橋 禁煙外来のみ 完全予約制	休診
消化器内科	午前	小林	小林 (ドックのみ)	小林			休診
内視鏡検査	午前		長佐古		小林	小林	休診

- ※1 循環器・腎臓内科外来の土曜日外来は第1・3・5週のみ。再診のみ(新患の受付は行っておりません)。
 ※2 (原則として第2週のみ)完全予約制(13:30~14:30)
 ※3 完全予約制(13:30~14:30)

ご予約のお問合せ



- 初めて当院を受診・他院からの紹介で当院を受診・3ヶ月以上受診されていない方

地域医療連携室【直通】 TEL:011-271-6050 FAX:011-271-6033

※お問合せ時間:平日/9:00~17:00

- 再診受診のご予約、お問い合わせの方

外来予約専用ダイヤル TEL:011-271-3712

※予約・お問合せ時間:平日/9:00~16:30



社会医療法人北海道恵愛会

札幌南一条病院

〈診療科目〉循環器・腎臓内科、呼吸器内科、糖尿病内科、消化器内科、人工透析、人間ドックほか

〈受付時間〉平日 8:30~11:30、13:00~16:30

土曜 8:30~11:30

〈診療時間〉平日 9:00~17:00 土曜 9:00~13:00

〈休診日〉日曜・祝祭日・年末年始

〒060-0061 札幌市中央区南1条西13丁目

電話 011(271)3711

FAX 011(281)0275

URL <http://www.h-keiaikai.or.jp/minamiichijo/>



社会医療法人北海道恵愛会 札幌南一条病院

電車通り通信

VOL.50

〈発行日〉令和8年(2026)8月12日

〈発行元〉札幌南一条病院 広報委員会